



学校だより アンケート特集号

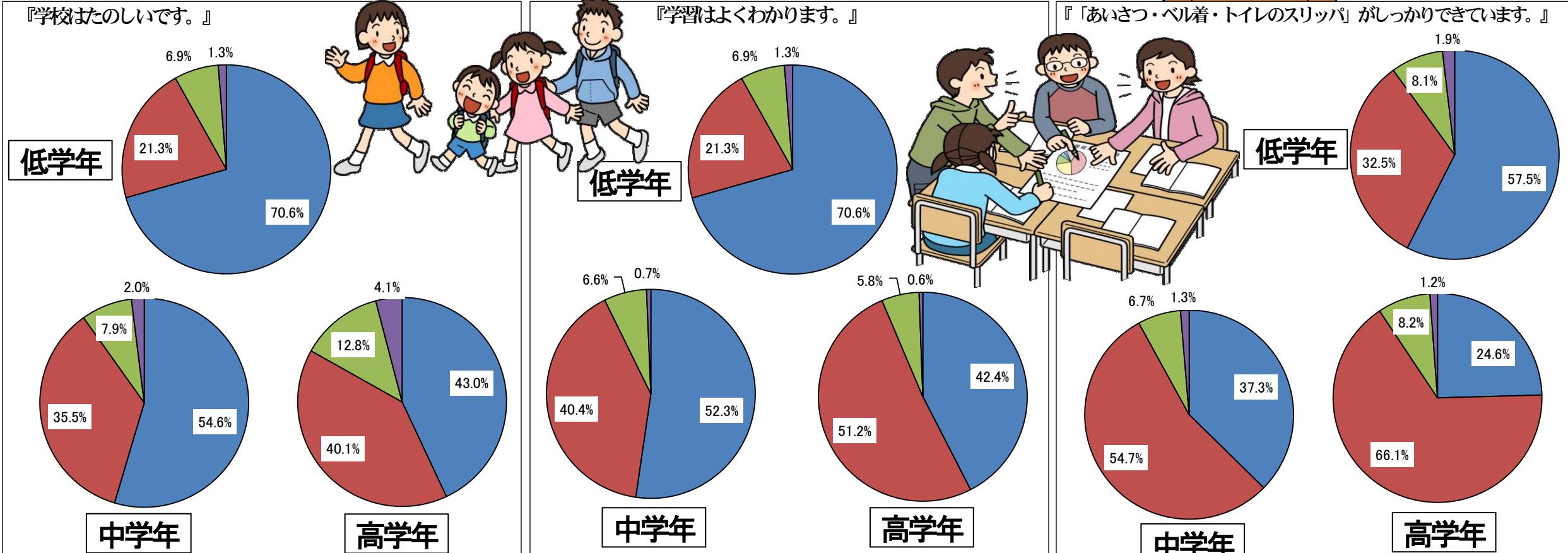
令和2年2月
京都市立桂東小学校
校長 志村光司

後期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。



子どもたちのアンケート結果から（1）



前期と比べて、“とても楽しい”“まあまあ楽しい”を合せた比率は、低学年・中学年・高学年とも前期に比べて若干低くなっていますが、結構高い数字を推移しており、うれしく思っています。しかし、“あまり楽しくない”“楽しくない”を合せた比率は、低学年が8.2%、中学年が9.9%、高学年が16.9%、前期より否定的な回答が高くなっています。低学年と高学年が気になります。

低学年は、友だち関係のことや学習のことなどで、自分の思うようにいかないことも増えてきているように思います。6年生にとっては卒業が迫ってきており、自分のめあてをもち、モチベーションを持続して主体的に取り組めるような行事や部活動など…が終わっていく中で、前期と比べてみて充実感・成就感を感じることが少なくなっています。このような結果になっているのかかもしれません。常に、夢中になれる何かを見つけて取り組んでいくことが大事だと思います。その他、ご心配なことがありましたら、担任にご相談ください。

“よくわかります”“大体わかります”を合わせると、高学年が93.6%で比較的高く、低学年が91.9%、中学年が92.7%とほとんど変わりませんが、低学年が一番低く、意外な結果を受け止めています。

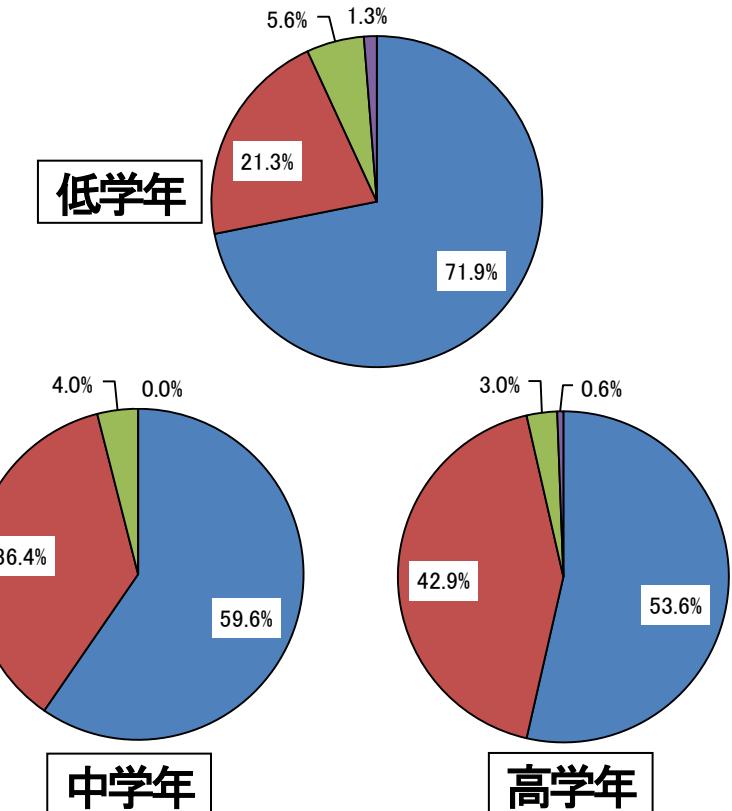
まず、基礎基本の習得に向け、「算数タイム」ではドリル的な学習を取り組んでいます。1月のジョイントプログラムや2月の学力定着テストの結果はまだ出ていませんが、楽しみにしています。今回のアンケート結果では、“わからない”が低学年で1.3%、中学年で0.7%、高学年で0.6%となっています。保護者アンケートでも実現度が前期では上位2番目でしたが、後期は上位8番目に下がっています。保護者の皆様からみても気になるようです。今までからも「わからない子ども」の克服を目指し、普通授業の中で個の課題に対応する学習となるよう工夫して取り組んできました。今後も個の課題に対応する放課後の個別指導にもしっかりと取り組んでいきたいと思います。

“よく出来ている”が前期より、低学年が5.1%、中学年が11%、高学年が11.7%下がっています。保護者アンケートでも実現度が最下位となっています。保護者の皆様から見て、“宿題をそろえる”は見えにくいと思いますので、“あいさつ”か“時間を守る”が出来ていないと思います。学校で観ている限り、“時間を守る”はしっかり出来ています。恐らく、“あいさつ”がしっかり出来ていないと考えられます。校内では比較的あいさつが出来ていると思いますが、校外では出来ていないようです。昨今、様々な事件が起こっています。誰にでもあいさつする、困っている人は助ける…なども大切ですが、同時に、自分の身を守る手段もしっかりと指導していく必要性を感じております。

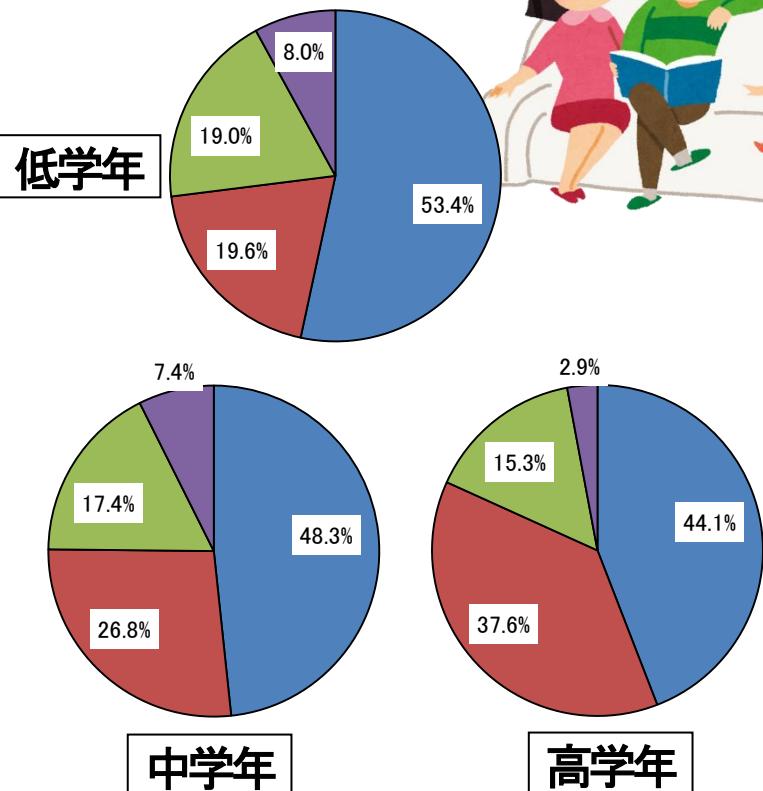
「あいさつは人と人が心を通じ合い、和（やわ）らぎ合っていること」とも言います。互いに理解し合い、信頼関係を築く大切な第一歩です。地域の皆様には“あいさつできる子”でいてほしいです。今後も、教職員の方から積極的にあいさつや声かけをしていきたいと思います。

子どもたちのアンケート結果から（2）

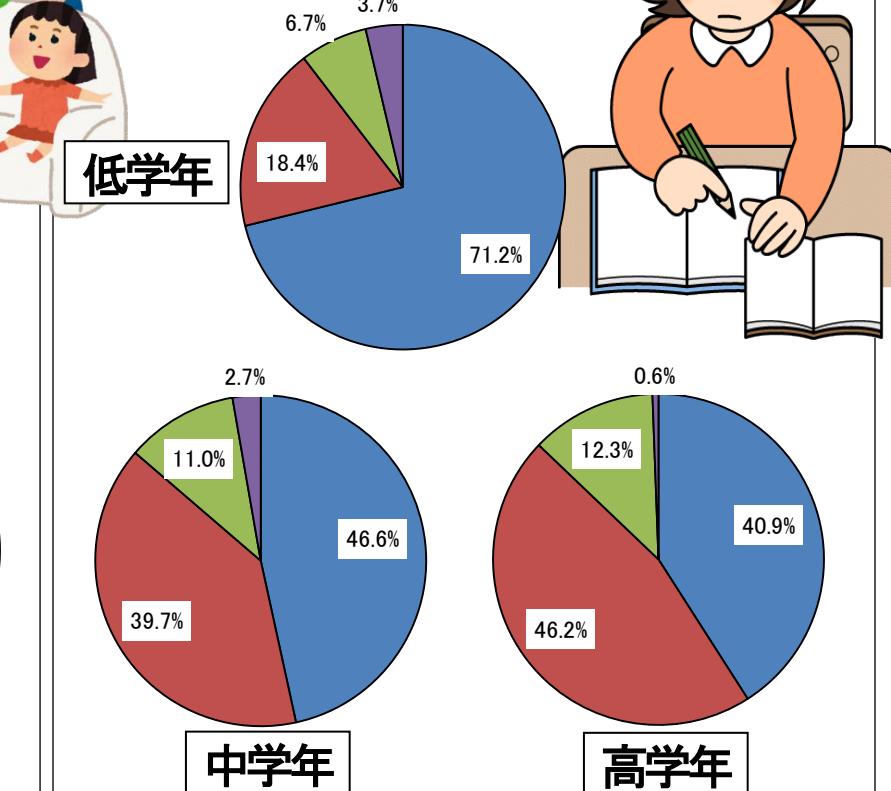
『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』



『家で学校のことをよくお話しします。』



『家でしっかり学習しています。』



前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく、93%～97%と高水準を推移していました。後期も肯定的な回答は同じような推移を示しています。しかし、“よく出来ている”だけを見ると、高学年は同じような推移を示していますが、低学年は3.9%、中学年は5.3%、低くなっています。保護者アンケートの実現度では、上位から3番目を位置しています。子どもたちと保護者の間にこれほどの温度差があるのは、学校では出来ているが、家庭や地域では出来ていないということになると思います。

規範意識の重要性が言われ始めて久しいですが、学校では、「あいさつ、ベル着、トイレのスリッパ」を合言葉に行動することで、ルールの大切さを実感していく取り組みを行っております。また、学習をはじめ、学校行事や清掃活動など、あらゆる教育活動の中で、みんなで何かをやり遂げる成就感・達成感を通して、規範意識が自然と身に付くように取り組んでいきたいと思います。家庭での規則正しい睡眠や食事等の基本的な生活習慣、家庭の手伝い等の家庭教育の土台があってはじめて、学校での取り組みも成果が出てきます。今後とも、ご理解・ご協力よろしくお願ひいたします。

前期は“よく出来ている”と“大体出来ている”とを合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともほとんど差異はなく、77%～79%を推移しています。“よく出来ている”だけを見てみると、低学年・中学年・高学年とも、前期に比べて今回は2%前後下がっているところが気になります。学校での様子は、高学年になるとほど恥ずかしいのか話さなくなっています。聞いても「別に…」とか「ふつう…」とか、言葉を濁すことが多くなっています。友だち関係や遊びの内容など、親としても知りておく必要はあると思われます。楽しく聞ける工夫をしていきたいものです。

小さい頃に、よく学校のことを家で話していたのに、高学年になると、話さなくなったり、同時に思いも伝えられなくなってしまいます。時間的な制約があったり、生活時間のズレがあったり、照れくさくなったりと、年齢と共に変化はしていきますが、やはり会話をする時間を確保することが必要だと思います。家族で食事ができる時間があって、テレビを見ながら食べていたり、お出かけしてもゲームをしていたりというのを見かけることがあります。いつも会話を楽しむ習慣をつくって、みんなが話せる環境を大切にしていないと、物を言わないと子どもになってしまふのではないかでしょうか。

“よく出来ている”が低学年に比べて高学年がかなり低くなっています。“あまり出来ていない”と“出来ていない”とを合せた否定的な回答は、中学年が一番高く、高学年と続いております。中学年の場合、低学年の時と比べて、抽象的な学習が増え、学習の具体的ないmageが持ちにくくなっています。それゆえ、学校で学習した内容でわかつたところ、わからなかったところが、十分自覚できていません。まだまだ低学年のようにご家庭でも丁寧に聴いてあげることで、お子たちにとつても何を勉強したか、どこがわからぬかなど、はつきりてきて、安心して学習に取り組んでいくことができるようになります。いろいろな方法はあると思いますが、このことを繰り返すことで、家庭学習の習慣化を図っていくてみてはいかがでしょうか。

令和2年度から大きく教育課程が変わります。道徳が教科となります。また、外国語活動の時数も増えてきます。そこで、教師から与えられた課題のみの取り組みだけに終わっていては、予測不能な時代の中で社会を切り拓くための資質・能力を育成することはできません。自らが課題を選び、自ら解決していく主体的な学びをつけていきたいと考えています。それには、家庭でも自ら学習する習慣を身に付けることがあります。ご協力、よろしくお願ひいたします。